

〔遺伝資源の収集・評価・保存〕

秋冬ネギの在圃性からみた直売向け品種の選定

沼尻勝人・野口 貴・海保富士男・木下沙也佳
(園芸技術科)

【要 約】 11 月下旬から 3 月上旬まで順次抜き取り収穫する場合は、冬季に伸長しすぎない品種がよく、揃いや早期の肥大性を考慮すると「夏の宝山, 光の剣」が有望である。また, 「No. 1102」は葉鞘径がややばらついたが厳寒期の肥大は最も優れた。

【目 的】

ネギは主に直売向けに栽培されており, 多くの生産者が取り入れる品目である。主要な作型は秋冬どりで年内から収穫を始め, 適宜抜き取り収穫している。そのため, 労力をかけずに (作型や品種などを変えず) 長く出荷できる在圃性のよい品種が望まれる。そこで, 本試験では在圃性の評価を冬季の生育や収量から行い, 生産現場で活用できる普及資料とする。

【方 法】

2016 年 3 月 18 日に「ホワイトスター」以下 11 品種をチェーンポット CP303 に播種し, ハウス内で育苗した。出芽後, ポットあたり 2 および 3 本が交互になるように間引きした。定植は 5 月 18 日にひっぱりくんで行い, 畝間 100cm, 株間 5 cm/ポット (50000 株/10 a) の 1 区 4.5m×2 畝 (9.0m²) の 2 反復で栽培した。基肥は N-P₂O₅-K₂O を成分量で 6-20-6 kg/10 a 施用し, 6 月 16 日に少量培土し, 7 月 25 日および 8 月 26 日, 9 月 26 日に追肥および培土し, 10 月 20 日に止め土とした。追肥は N-P₂O₅-K₂O を成分量で 5-0-5 kg/10 a とした。収穫調査は 11 月 25 日 (定植後 188 日), 1 月 12 日 (同 236 日), 3 月 10 日 (同 293 日) に 1 区 20 本で実施した。

【成果の概要】

1. いずれの品種も 11 月 25 日で葉鞘長は 35cm 以上あり軟白部の仕上がりは良好であった (図 1)。特に, 「ホワイトスター, 龍ひかり 2 号, 龍まさり」は長く, その後の伸長性もみると前述した 3 品種に加えて「夏扇 4 号, 秀景」も優れた。しかし, こうした品種は首が伸びるので長期在圃させるには適さないと考えられた。一方, 伸長しすぎず草丈もコンパクトに仕上がる品種は「夏の宝山, No. 1102, 光の剣, MKS-N15, 白髪一文字」であった。
2. 葉鞘の伸長性や草丈から選定した 5 品種のうち, 葉鞘径の変動係数が小さく, 安定して揃いに優れているのは「夏の宝山」であった (図 2)。次に「光の剣, MKS-N15, 白髪一文字」も 1 月 12 日や 3 月 10 日の変動係数は小さかったが, このうち「光の剣」は早い時期から 3 L や 2 L 規格が多く有望であった。また, 「No. 1102」は変動係数がやや大きかったが冬季の肥大性があり, 3 月 10 日では 3 L 規格が半数以上を占めた。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 伸長性のある品種は, 低温期の収穫日に合わせて定植し培土するのが適当である。
2. すべての品種で 3 月下旬以降抽苔がみられ, 「龍まさり, 秀景」が遅く, 「ホワイトスター, 夏扇 4 号」で早かった。抽苔については詳細な調査が必要である。

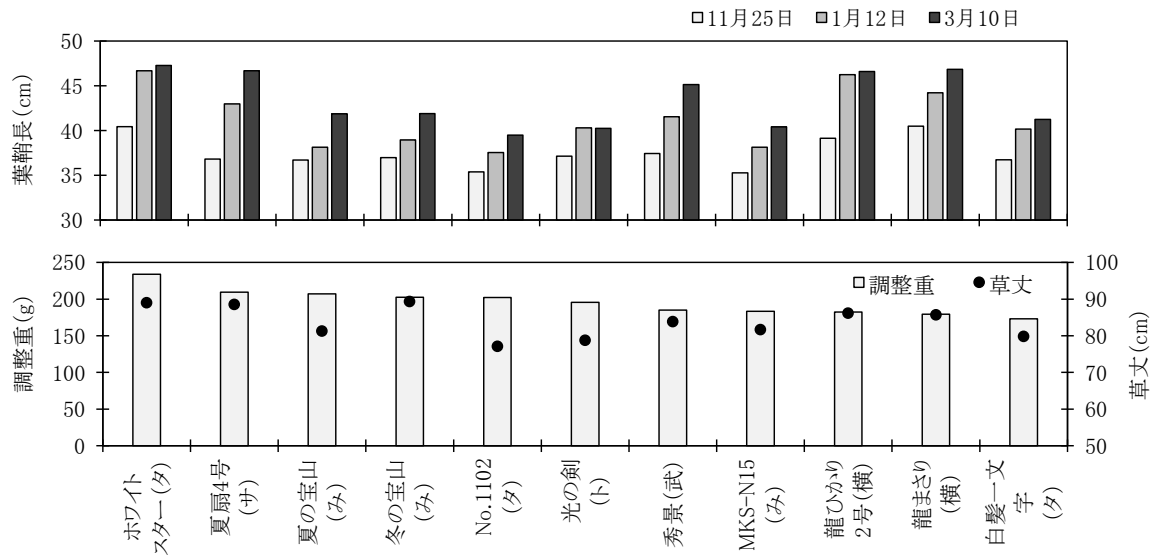


図1 秋冬ネギ調整重および草丈(3月10日調査)および葉鞘長の推移
 タ:タキイ種苗, サ:サカタのタネ, み:みかど協和, ト:トキタ種苗, 武:武蔵野種苗, 横:横浜植木。調整葉は3枚とした。

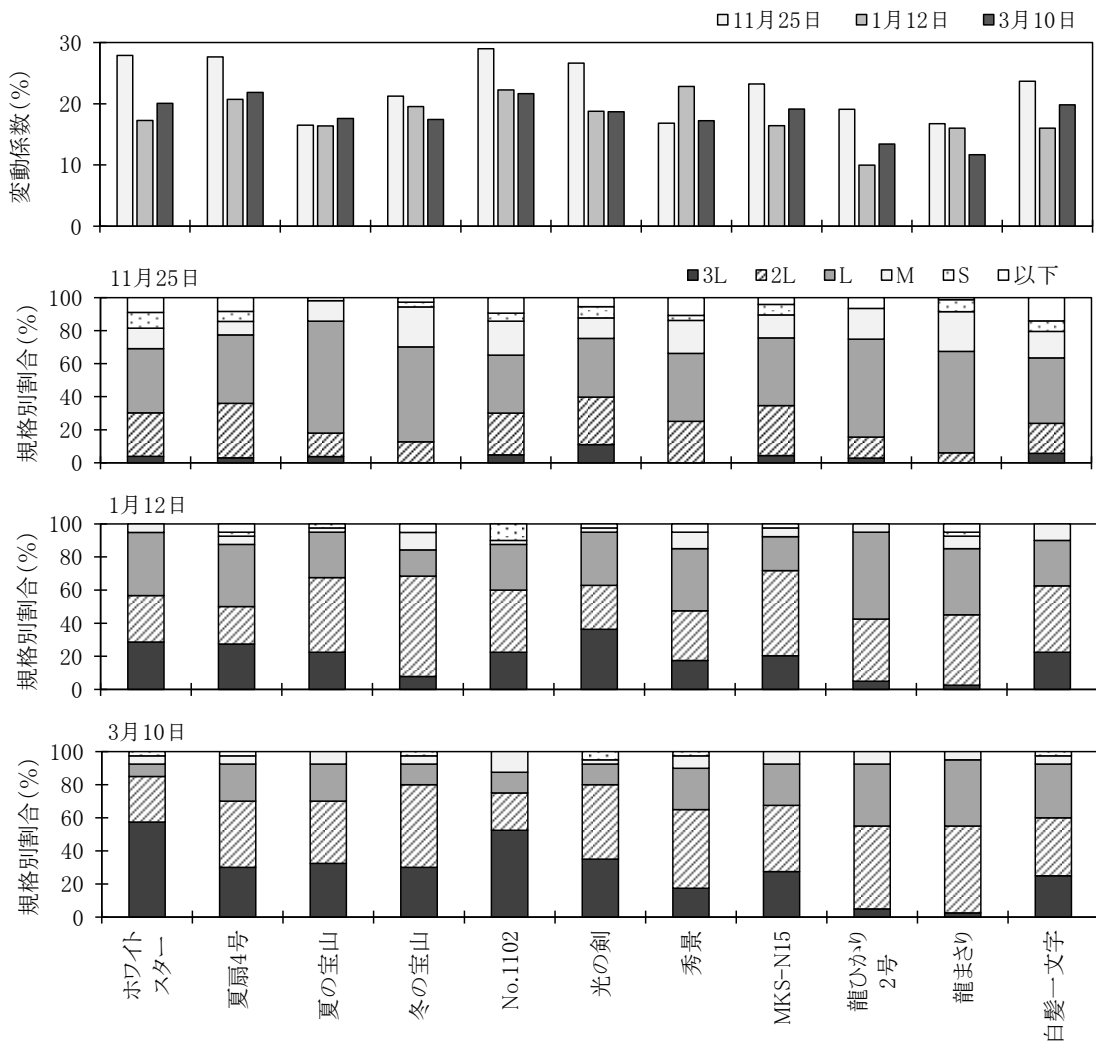


図2 秋冬ネギの規格別収穫本数および葉鞘径の変動係数
 規格は葉鞘(軟白)部の中心径を3L:25mm以上, 2L:21mm以上25mm未満, L:16mm以上21mm未満, M:12mm以上16mm未満, S:10mm以上12mm未満, 10mm未満とした。